

五期俳句会第百六十一回一月六日

今回は久貝さんがお家の中で脚立に乗っていてこけてお休み、又
浅香さんもご主人の都合でお休みと三人だけとなる。

新年やいよよ華やぐ八十路あり

塩田豆子

初詣晴れ着の人もおおかりき

松浦武子

振り返り良き年なりし除夜の鐘

今井由紀子

初夢の目覚め吉祥如意上がる

塩田豆子

初詣腰ひねりたる菩薩かな

塩田豆子

ゆく年の鐘にほろりと八十路かな

今井由紀子

誰たが植えし城の水仙香の強し

松浦武子

初春や宮居に凜と笙ひびく

塩田豆子

大株の万年青赤き実抱いだきをり

松浦武子

銀杏葉の散りて黄金の道となり

松浦武子

初売りやつられ余計な物を買ふ

松浦武子

冬鴉風に流されいるごとし

今井由紀子

年重ね好物となり大根煮

今井由紀子

ひかえめに願ひ事する初詣

塩田豆子

老いた夫細つまき指にも祝箸

今井由紀子

三人だけで句会というのも可笑しなもので終わってから長々と
無駄なおしゃべりをしてそれでもいつもより早く帰った。